129

特241
895

柳原隆著

支那をめぐる日英の對立戰

十錢

さんもん書房版

2

0010126000

0010126-000

特241－895

支那をめぐる日英の対立戦

柳原隆・著

さんもん書房

昭和11

ABJ

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月23日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

特241
895

柳原　隆著

支那をめぐる日英の對立戰

東京　さんもん書房刊

支那をめぐる

日英の對立戰

—目次—

一、罪は支那にあり……（五）
二、假面を被る親日……（八）
三、英國の暗躍頻り……（一〇）
四、自繩自縛の排日……（一三）
五、支那陸空軍蠢動……（一五）
六、日支若し戰はば……（一七）
七、彼等の疑心暗鬼……（一九）

八、抗日熱を轉ぜよ……（二一）
九、統一は表面のみ……（二三）
十、苦惱の學生運動……（二五）
十一、歐米依存を廢せ……（二八）
十二、英米の魔手跳梁……（三〇）
十三、日英對立尖鋭化……（三二）
十四、黄禍論と白禍論……（三四）
十五、日本派と歐米派……（三六）
十六、支那よ共に進め……（三九）

支那をめぐる 日英の對立戰

柳原隆

一、罪は支那にあり

日支問題が和平か、戰爭か、何れかの一つに解決せられなければならないのは自明のことで、幸ひに和平裡に終結すればこの上もないことであるが、諸種の情勢よりあるひは……といふ懸念を一般に抱かずには居られないのである。

日本としては日支關係を從來の如く問題山堆狀態で何日までも放任して置くことは不可能である

究極に於て暖簾に腕押し式では我慢が出來ないのだ。

去る九月十五日第一回川越張群兩氏の會見により、日支交渉は漸く軌道に乘つて來たかに見受けられたのに、引續く侮日テロ事件は、再び兩國國交の前途に深刻なる不安障碍を與へた。

有田外相は、

「今次交渉の結果は日支關係が非常に良くなるか、あるひは又非常に惡くなるかの二途を出ない。從來のやうな曖昧に事態に置かれることを許されないのである。從つて支那側としては、この際日本と握手するか否かを選ぶべき重大な岐路に立ち居るものである。云々」

と語つてゐる。右の聲明が支那側の蒙を啓くべき重大なる示唆を與へてゐることは說明するまでもない。

支那の頑迷執拗なる抗日侮日政策は、支那大衆の眞意にあらずして國民政府の人心收攬策であるといはれ、あるひは反蔣運動の面々の國民政府打倒の便法であるといはれ、更に又共產系分子の蠢動に外ならぬといはれるけれど、第三の理由は暫く措き、第一第二の理由に關しては、日本の迷惑これより甚しきはないといつてよからう。

歷史より生ずる支那の日本への反感は、同樣に外國へも振り向けらるべきものであつて、彼等が眞に愛國心に眼覺めてゐのと假定したならば、徒らな歐米依存、抗日侮日は反つて自らの墓穴を堀るものであることを知らねばならない。

彼等の抗日侮日を、その民族性の自覺に依るものなりと斷じる者があるのは、早計であり誤認である。

勿論民族性に眼覺めつゝあることは事實であつて、青少年の民族運動、救國運動は日增しに熾烈さを加へつゝはあるが、しかもその運動の捌け口を日本に求め、日本を目の敵にすることが眞の目的であるや否や。

民族性に眼覺めることは、支那民族として自覺すると共に、更に東洋民族としての自覺が絕對條件である。日本は徒らに支那を侵略し、權益を獲得しようといふのではない。從來の日本は支那から幾度煮湯を飮まされたことか。

支那が日淸戰爭以前より、少くともこゝ三十年以前より日本と完全に握手してゐたら、外蒙、西藏等の獨立もなく、滿洲上海事變、延いては滿洲國獨立も無かつたに相違ない。共產黨の侵略も歐

米各國の蠶食も免れ得てゐたと斷言することが出來る。

今日支那四億の民は何處へ行く……と外國の憐憫を買ふのも一切の罪は彼等自らの中にあるのだ

二、假面を被る親日

彼等はその目覺の餘りに遲きを自覺してゐない。今日の結果のみを見てその因つて來るところを知らうとしない。

日露戰爭以前、露國が滿洲の權益を更に伸長し、その頃まだ日本と合併してゐなかつた朝鮮の日本勢力を驅逐して日本海に驥足を延ばさんとして、蜿々千二百露里に及ぶ東支鐵道が敷設された。支那の生きた體内に全く異つた他人の血が流れ込んだのである。

この鐵道敷設に當り、當時露國の權勢家セルゲイ・ウイツテに買收された賣國奴は外ならぬ李鴻章である。

斯くの如く支那自らが拔き差しならぬ破目に轉落して行つたのは、外國の野心に追從した彼等の

祖先の所業である。

外國の勢力範圍、租借地は現在支那全土に蜂の巢の如く入り亂れ收拾すべからざる狀態で、國内は又内亂に次ぐに内亂、民衆搾取の大小軍閥が跋扈して、國としての形態は備へてゐながら實際は國家にあらず、たゞ厩の如く亂脈たるものであつた。

そこに國家としての躍進活動、民衆としての向上發展があり得よう道理がないではないか。

國を擧げての團結なら兎も角、一部の反抗運動は反つて自由を窮地に導くものだ。一九〇〇年の拳匪の亂は歐米に對する反抗運動の爆發であつたが、その結果は自縛的なものとなり列强の勢力を加重した仕末であつた。

支那は世界人口の四分の一を有する世界最大の商品消費地であり、茫大なる土地は投資市場として恵まれてゐる。卽ち列國の支那に關心する所以のものであることは明らかであるが、所謂西洋と稱する歐米の資本主義は、昨日は支那を援助するかに見えると、今日はこれを阻止するといつだ有樣で、自國の利益以外何物も眼中になく、近代國家化した日本の出方に就いては如何なる事にせよ嫉視の眼を以て眺め、裏面に魂膽あるものゝ如く歪曲して解釋する。

日本としては、日本の發展を阻害しない限り東洋民族自決の立場から日支共存共榮の大鐵則は既に疾くよりこれを提言し、實現の熱意を有してゐるのである。

日本の産業及び大陸政策は些の動搖もなく、歩一歩確實なる進展の一途を辿りつゝある。列強の對支援助は何等悖むに足らない。こゝに於て最近の國民政府は深省するところあつたものか、自然的社會的原因による疲弊國力の挽回のために、予を收めて日本との和親修交に專念する外なしと感ずるに至つたものらしかつた。漸く日支提携の機運が熟した折も折、不祥事件が頻發したのは實に遺憾の極みであつたが、日本が決して事件を楯に日支提携を拒否するものでないことはその後に於て明白な通りで、國交調整交渉を先決問題とし、川越、蔣會見となり、難關を突破せんと極力努力しつゝある。

三、英國の暗躍頻り

日支交涉は豫期の通りなか〳〵進涉せぬ。その進涉せぬ原因をして、國民政府の國內反政府系分子への氣兼ねと、英米露外交の魔手が擧げられてゐる。

日支交涉の眞最中、英國の對支クレヂツト設定問題が報ぜられ、英國は輸出補償の形式により、事實上三百萬ポンドの借款を國民政府に提供するもので、日本索制策として政治的意義を有してゐるものであると稱せられた。この報導は英國の反日新聞によつて素ッ破抜かれたが、英國政府は日本を刺戟することを憂慮し、その政治的意義を否定し、單に獨佛の對支貿易業者に對抗する自國の對支貿易業者を經濟的に擁護する手段に過ぎぬと釋明した。

釋明は論外であつて、要はその政策の及ぼす影響を考慮すべきである。

この英支借款は孔財政部長談によつてその成立の事實を裏書されたが、英國の目標は南支の權益確保にあることは明らかである。

蔣介石南下の際カルデコツト香港總督との會見が行はれ、何等かの重要會見であつたことは豫想せられてゐたが、果せるかな、今日の英支借款となつて具體化された。

英國はその代償として、

一、廣東廣西に於ける鑛物採堀權

一、英國綿布類の南支輸入增大
一、九龍要塞構築
等を獲得した。

新任駐支英國大使ヒューゲッセン氏は、ランプソン公使、ガドガン大使時代の活躍の後を受けて兩氏の活躍以上の活躍を期し、曩に北上した際は、宋哲元氏と會見し、北支に於ける英國の權益に關し最少限度に於て現狀維持を要求してゐる。

更に同大使は十月廿四日張外交部長を訪ひ時餘に亘つて會談したが、日支交涉に對する支那側のその後の態度を打診したものと見られてゐる。

更に又英國は日支交涉問題に關し、日本の屈辱的條約たる九ケ國條約を發動すべく、關係各國にその意向ありや否やの打診を開始したと報導せられ、これに對し英國當局は全く事實無根なる旨を說明したが、外交的言辭は信用さるべきものと、信用せられざるものがある。

英國としては積極的に日本を無視してまで、その支那に於ける權益を固守し、又伸長せしむるの覺悟があるらしい。

四、自繩自縛の排日

南京政府が日本と約束した通り排日取締を實力を以てしても斷行するといふ誠意を示したならばテロ行爲もある程度までは抑制し得たであらう。

しかしその取締命令は單に紙上の命令に過ぎずして、章乃器一派の如き公然と抗日戰爭を提唱する者さへ等閑に附してゐる狀態で、一片の誠意すら認めることは出來ない。

國民黨は衆知の如く大正十三年から昭和二年に至るまで、露國コンミンテルンの指導を受けつゝある中國共產黨と手を握り打倒帝國主義、打倒資本主義を叫んだ。

孫文の三民主義は民權、民生、民族の主張で、見方によれば共產主義的色彩を多分に帶びてるが、即ち國民黨の共產主義的色彩に加ふるに、中國共產黨との握手によつて、國民黨員は根强く共產主義を吹き込まれたわけであつた。而して共產黨の國民黨乘ツ取りの危險を感じて國民黨は共產黨と手を切るに至つたが、植えつけられた共產思想はいつかな抜け切らない。

共産黨は國民黨乘ッ取りが失敗して以來は、國民黨乃至南京政府を相手に益々その魔手を全支に延ばし、完全なる赤化を目指して寧日なき有樣である。

蔣介石は支那に於て曾つて見なかつた一大勢力であるので、共産黨としてはその方略遂行上蔣介石が邪魔物である。何とかしてその失脚を計りたい。又日本の帝國主義とは絶對に相容れない共産黨である以上支那領土から帝國主義的勢力の驅逐を實行しなければならぬ。

斯くの如く種々錯綜した原因から排日テロが敢行せられた。

國民黨を足場として今日の地位を築き、共産黨と手を握り、あるひは排日を煽動して政權强化を策し來たつた蔣介石に取つて、今日の狀勢は全く豫期しなかつたものに相違ない。

蔣介石は見す〳〵共産黨が計劃する日支離間策、打倒蔣介石の戰術に陷らんとし、全支に擴大した排日思想の恐るべき浸潤に今更ながら驚愕し善後措置に窮するに至つた。

日支交涉に失敗することは、內政的反逆を誘發する動因となるのであつて、日支交涉に判然としたけじめをつけ度くない所以であらう。彼は今や對日折衝の重大化に加へ內政關係の危機に懊惱してゐるのだ。

五、支那陸空軍蠢動

支那民衆は日本の要求が頗る過大なものであるとの妄念を持ち、その要求を容認する上は日本は益々圖は乘り、愈々侵略の度を加へるであらうと見て居る向が多いと傳へられる。

南京政府は本格的問題を後廻しに、成可く民衆の感情を刺戟せざるよう末梢的問題から除々に解決して行くだらうと見るのが當を得てゐる。

而して南京政府部內に日本の要求を容認するよりも、全面的に抗日戰線を統一し玉碎すべしとの主唱が漸次有力化しつゝあることは注目に値する。

それかあらぬか支那軍隊の行動は屯に活潑となり、隴海線一帶に集結された中央軍は、その一部を北上せしめつゝあり、又南京杭州附近の支那空軍は最も活潑な動きを見せ、航空學校生徒は全部罐詰めにされて待機の姿勢を取つてゐると傳へられ、共産軍も亦西北方に蠢動して抗日諸團體並に所謂人民戰線を結成する一派と密接な連絡を保ち、飛電密令が頻りといはれる。

北上の中央軍は既に三十三個師に上り、蔣介石は彌が上にも軍備充實の指令を發し、近く彼自身北上して北支各地の軍備狀況を視察するとまでいはれてゐる。

彼等の意氣頗る旺盛で、日本軍何ものぞとの氣慨を示してゐるといはれるが、一人よがりでないと結構である。

對日主戰派に對し、溫健派は劣勢を示してゐるが、この間にあつて蔣介石が如何なる斷案を下すかは、世界の齊しく刮目するところであらう。

しかし蔣介石が主戰派を支持して一敗地に塗れることを決意するほどの無分別な人物でないことは想像がつくが、さて我が要求を兎も角容認した場合、果して彼に實行力ありや否や、信頼するに足る人物なりや否やが重大問題である。

現在の支那に彼ほどの權力者なく、交渉相手としてどうしても彼を選ばざるを得ないのであるが從來の如き彼の態度では日本が滿足せぬことは容易に想像し得るものと思はれる。

その場限りの皮相的な解決案を以て交渉に應じて來ても、日本は直ちにこれを峻拒し、根本的解決を飽くまで要求するに違ひない。根本的解決の爲には彼に對し一時武斷的な采配を揮ふことまで

要求するかもわからないだらう。

これを要するに複雜微妙の情勢といへる。

六、日支若し戰はば

上海の住民は戰爭には敏感である。新聞紙上では再び上海動亂の勃發すべきを恐れた多數の市民が陸續と避難を開始したことを報じてゐる。

支那當局の避難禁止令や、公安局の必死の制止も效を奏せず、富裕者は乘物で、一般は徒歩で夜遲くまでネオンの華やかな街路を、あるひは薄暗い裏街を三々五々と落延び、これ等氣早の連中を見送る人々の顏にも一抹の不安が漂ひ、この中にあつて我が陸戰隊員は防彈チョッキに身を固め、手に〳〵ピストル銃劍をきらめがして、機關銃、タンク等が夜目にも物々しい光景を呈して、戰の前夜の無氣味さに似たものがあるといふ。

情勢を反映した上海市場は急落の一途を辿り、中央、中國、交通の三大銀行では時局の急迫に鑑

み、現銀及び重要書類等を某々方面へ搬出し、上海に於ける現銀は一千萬元を餘すのみとなり、最近五日間の海外銀搬出額は八千萬元の巨額に上つてゐることは果して何を物語つてゐるか。萬一の場合の準備に相違ないことは明らかで、上海ば勿論支那各地共不吉な豫感に戰いてゐる。

日支若し戰はゞ？

不幸にして交涉打開が暗礁に乘り上げた場合、さては民衆の激するところ、不慮の衝突を招來するやうなことがあれば、居留民の引上げとなり、砲火を交へなければならなくなることは必然の數であらう。

それは日本にしても支那にしても同樣に好むところではない。日本は根本の建前として平和解決を希望してゐるのだし、支那は戰つたところが到底勝算なきことは戰はぬ前から分明である。自尊心の面目上、國民への手前、玉碎を覺悟するに外ならない。

今度戰へば北支がどんな形勢になるか位は政府當路者としても千分了解してゐる筈である。

七、彼等の疑心暗鬼

昨年來、「日支接近」「親日轉向」が頻りに傳へられ王兆銘が行政院長時代親日聲明が發せられ、俄かに日支が親善の軌道に乘つたかのやうな印象を受けた。

日本としては昔から親善を希望してゐるのであるが、支那自身がつむぢを曲げて、日本のいふ親善は侵略の假面を被つたものであるとか、又經濟獨占を覗ふ魂膽に外ならぬとか、色々と妄想を逞しうしてゐたのである。

然らば何故にさうした支那自身が日支親善を叫ばなければならなかつたか。

彼等は例へ暫定的にせよ、どうしても親日へ轉向しなければならない破目に陷つてしまつたのである。

所謂歐米派と稱するものゝ歐米依存政策は滿洲事變を契機として漸次崩壞して行つた。滿洲事變で聯盟、殊に英米の悖むに足らざることを知らされ、宋子文の對米棉麥借款も龍頭蛇尾に終り、ひ

そかに豫期した日露開戰も當が外れるといふ仕末、而も內政的には三億二千萬豐民の窮乏、財政の困憊、共產軍の跳梁等の重大問題が横はつてゐる上に日本軍部の大きな威壓を感じた。

どうにも仕方がなくなつた揚句の親日轉向であつだ。然るに王兆銘の聲明や政策にも拘らず、その後盧山會議の席上で、蔣介石の部下の者が我々は死んでも日本と親善關係を結ぶことは出來ないそれにも拘らず親日工作を默認して居られるのは何故であるかと詰め寄つた際、蔣介石は一時的辨法である、隱忍自重、時機の到來を待つて東北四省を回復すべきであると說いたと傳へられる。

支那言論界は日支親善に對し決して贊意を表して居らぬ。日本が先づ優越感を去り、侵略主義を止めよ、日支親善の鍵は支那よりも寧ろ日本が握つてゐる。親善の手本を先づ日本から示して呉れといひ、最も極端なものは、日支親善とは近頃以つて奇怪至極だと極言してゐる。

王兆銘が遭難するや親日派は俄然勢力を失墜し、歐米派の跳梁に委せざるを得なくなり、露支密約、親英親米政策を取つて日本を革制せんとした。

英國の特使リース・ロスによる支那幣制改革もそうした空氣を雄辯に物語るものである。

八、抗日熱意を轉ぜよ

排日は支那に於て一つの流行語のやうな性質を帶びてゐる。排日を實行しなければ支那人にあらずといふやうな通念になつて來てゐる。數十年の排日教育の結果は恐るべきものとなつてゐる。

小學校の卒業式に日本製品の賞品を與へると、その學校長は辭職しなければならず、小學生自身も日本製品を貰ふのを忌避するといつだ有樣、軍隊の操典や要務令も從來日本式であつたものを獨逸式に改正し、國貨提唱運動による巧妙な排日貨は、原產地表記條例で日本製品であることが明記される爲、客は日本製品を買はないようにする。猫も杓子も排日でなければ夜も明けぬといふ狀態である。

最も排日の熾烈なのは抗日人民戰線の名に於ける都會地インテリ層に指導されるもの、又反蔣聯繫の各團體、國民黨內部の共產色濃厚なもの、銷國的分子等で、心底から排日を叫ぶもの、あるひは排日を利用せんとするものなど頗る複雜多岐に亘つてゐる。

かうして瀰漫した排日思想に對し、國民政府は今や最も憂慮すべきチレンマに陷つてゐる。川越大使が日支調整の爲南京に乘込んだ矢先、皮肉な排日テロ行爲が續出した。政府はこれに對し何等の策の施しようもなく、實力を以てしてもその統制を危ぶまれる結果となつてゐる。

支那としては日支調整の手前、嫌ひもこの日支を取締らなければならないのだが、まだ斷然たる日支政策を實施すべき時期にあらずとの意識の下に於ける工作であることに留意すべきであろう。蔣介石にしても、又は南京政府にしても、排日思想を徹底的に取締つてその根絶を期し、方向轉換せしむるだけの意表は毛頭もないし、又あつても實行不可能であることは明白である。

我々日本人からいはしむれば、この抗日排日ほどの熱意と努力を眞の救國建設の方面へ振り替えたならば、必ずや恐るべき一大動力となるの疑ふ餘地もないところである。

蔣介石が提唱した新生活運動は、意識的と否とに拘らず一時排日空氣を餘程緩和しだが、今日ではその運動も當初の如き熱なく、排日のみが些の倦怠もなく、支那人たるべき一つの資格の如く繼續されるのは何故であらう。

その排日策が多年の經驗と練磨とによつて愈々巧妙を極め、表面穩健なるが如くあつて、その實は更に一層尖銳深刻化してゐることは將來我が對支策遂行上益々多難を感ぜしめる。

支那には排國思想に加へて獨特の國內不統一と國民性缺陷がある。

日本が各國に卒先して駐支公使を大使に昇格せしめた際、支那の言論界は勿論一般民衆も日本の好意を歡喜したが、誰がいふともなく大使昇格など外交の遊戲に外ならぬ、それよりも失地を返せと暴言を吐くや翕然としてその言に從ひ、日本の好意を蹂躙するかの如き觀があつた。

日本は決して支那の機嫌を取る必要もなし、又そんな氣分は味塵も持たず、眞に日支調整の一步を進める外に他意はなかつたのであるが、つけあがるといはふか、相手が一步退けば一步前進するといつた風な香しからぬ國民性を持つてゐる。卽ち一定の確たる方針の下に直往邁進するより外なしと我に決意せしめる所以である。

九、統一は表面のみ

支那の特異性である不統一は、支那今日の狀態の起因するところであると共に、久しく日支關係

を困惑させたものである。

北京に相當有力な政府があるかと思ふと、南京にも廣東にもあるといつた風で、北京政府を相手に日支親善の交渉を行つてゐると、他の政府が北京政府倒壞の目的を以て色々なデマを飛ばす。從つて北京政府としては國民への氣兼ねから親善交渉を打切るといふ有樣でめつた。

國際聯盟へ滿洲問題が上程された時、日本は支那を完全なる國家と認めないと主張した。當時と現在とでは西南派問題が趣を異にしてゐるが、大なる相異はない。國民政府が表面上だけでも統一政府の形態を備へてゐるから、同政府を相手とするのであつて、國民黨部を信賴するにあらずして單に蔣介石を相手とするに過きない。

蔣介石の人物に就いては拙著「獨裁三人男」に述べてあるのでこゝでは省略するが、來る十一月の支那憲法の制定、大總統の選任を見たところで、蔣介石亡き後の支那の情勢を想像すれば、誰しも思ひ半に過きるものがあらう。

蔣介石多年の宿願たる西南統一も表面では大體解決されたかの觀あるも、西南派は再び勢力を挽回すべしと見る向が多い。

卽ち蔣介石と西南派の妥協條件は、テロ事件頻發のため早急に解決すべき必要があつたので、多大の犧牲を忍んでゐる。それだけ西南派には有利な條件で、李濟深、蔡延楷に對する逮捕令を取消し、廣西軍の常備兵力三萬を十一萬に增加することを承認し、軍備として年五百萬元を支給し、貴州雲南の阿片を元通り廣西省を通過させる等の重大問題が確認された。

かくて西南問題も落着したやうであるが、納まらないのは舊地盤を奪はれて移動を餘儀なくされた西南軍で、蔣介石代理として派遣された廣東行營主任何應欽に對し心服する筈なく、何應欽としても李宗仁、白崇禧等の大物に對して威壓が足らず、今後何日何時爆發するやも保し難い狀態にあるといふことだ。

十、苦惱の學生運動

支那の學生運動は、政府そのものが困惑を感ずる程に熾烈であり、又影響するところが大きいといはれる。

學生全部が全部、運動に參加する意志を持つてゐないらしいことは新聞雜誌等の消息で知ることが出來るが、參加者は手を擧げろといはれると、どうしても手を擧げずには居られぬらしい。所謂指導者なるものが、その邊の群集心理をはつきりと呑み込んでゐるらしいのである。

支那の學制は殆んど歐米の影響を受けて成立してゐる。主として學問の研鑽そのものに重きを置き、個人に就いては敎室に出席しようがしまいが一切おかまひなし、男女關係に於ても粹を利かすだけの餘地を殘してある。

學校の建築物にしても十中の八九までは餘りに贅澤なと思はれる程のもので、又學生の待遇がよいといふ。

學校を卒業すれば直ちに失業の憂目を見なければならないのがわかつてゐても、大學出といふので社會からは偉いものだと思はれる。

學生時代は朗らかに勉學しなければならないのに、彼等は卒業卽失業以前にも支那の悲慘な國情を知らされる。現狀を打破しなければならないといふ叫びは、徹底的民族解放を叫ぶか、然らずんば外國の完全なる殖民地化を甘受するかの二つの結論に逢着する。悠久五千年の歷史を持つ支那四

億の民が如何に急迫した今日の狀態とはいへ、外國の殖民地化を迎へよう筈がない。民族解放への驀進あるのみである。

軍閥官僚の外交內治へも反駁もあろうし、外國への反對もあつて、それが運動となつて表面化する。五・四事件、五・三十事件等の學生運動は世界を震憾させた。

學生は今日の支那の苦惱そのまゝを象徵してゐる。

學生スパイが居るかと思へば、一ケ年五萬元十萬元と無駄費ひをするプルの息子も居るといふ有樣で、その責任回避の病的缺陷は傳統的なものである。社會を餘りにも重視し個人を無視する習慣は、何でも彼でも罪を社會に歸し、自分の責任ではないといふ狹い觀念が蔓延してゐる。

清朝の崩壞を目擊し、古き傳統を誇つた一切のものが激流のやうな近代文明の爲に地響き立てゝ壞滅して行くのを見た彼等は到底健康的な呼吸を許されなかつた。激流に押し流されまいとして、理想と生活とを堅持するために漸く探り當てたものが民族自決の叫びであつだ。彼等は一切を正視し改善し向上せしめなければならない鍵を握つてゐるのだ。

十一、歐米依存を廢せ

日本の強硬自主外交は日清戰爭前後から叫ばれた。英米追從外交。あるひは軟弱外交との非難を受けた後、滿洲事變前後より漸く自覺せる獨自の外交が行はれるやうになつた。反動外交では決してない。近代國家化した日本として當然すぎる結果であらう。しかし強硬自主外交といつて必ずしも猪突的なものでないことはいはずも知れたことで、殊に對支外交に至つては强硬の內にも相手を育んで行く度量が藏されてゐることは明らかである。

支那は英米を賴みとして餘りに日本に情なく當り過ぎた。日本の大陸進出、而もそれは鴨綠江を飽くまで國境線とした大陸權益の保有に過ぎなかつたのである。

支那は國內に於て日本は滿洲國を經營する能力はない、遠からず投げ出すに決まつてゐると放送するかと思へば、歐米に於ては日本侵略の脅威は北支から揚子江、更に南支一帶にまで延びるであらうとデマを飛ばす。たゞ呆れた宣傳といふ外はない。

彼等は抗日排日と騷いでゐる間に、英米露から思ふまゝ蠶食されて行くのを氣付かないのだ。歐米派があれほどに期待した米國の援助は豫期に反し、却つて米國の銀政策は自國をどれだけ苦しめたか。英國はリットン報告書の外に全く趣を別にしたバーンビイ報告書を作製せしめたではないか露國は滿洲國が出來上るや逸早く東支鐵道に見切りをつけて賣却したではないか。

日本が支那に要求するところは、赤化共同防衛を眞面目に考慮して欲しいといふことである。支那が抗日排日に努力すると共に、赤化共同防衛に協力するやうであれば、日本は相當以上の代償を彼に與へるに躊躇しないであらう。

支那は領土的にも經濟的にも半殖民地化してゐる上に、その經濟組織は未だ封建的なものに過ぎない。世界の先進國がその轉換に喘いでゐる資本主義も、支那に取つてはまだ〳〵十分その役割が殘されてゐる。

北支に對しては日本の資本投下がある筋より慫慂されてゐる現狀だ。

支那は日本の武力行使を最も恐れる。そこに支那の對日外交に苦心が存すると共に、日本の對支外交が二元的となる所以である。昨年あたり對支外交一元化などと喧しくいはれたが結局二元外交

に歸着する外ない。

今後の日本の外交を和協的ならしむるのは、一に支那の出方如何に懸つて居り、支那の背後にある英米露の責任でもあるのだ。

英米が今次の日支交涉に重大な關心を持つてゐるのは、彼等が共に從來の權益擁護と今後の發展の障害となるべき禍根發生を嫌つてゐるに外ならぬ。

英米はその廣大なる領土と權益に滿足して居つて然るべきで、東洋にまでのさばらなくてもいゝ筈だ。

十二、英米の魔手跳梁

支那の眞實の發展を希望する國は、あるひは日本以外に無いかも知れない。

昨年末の支那幣制改革は、支那財界安定の爲とはいひ條、現狀維持以上一步も出でゝはゐない。

支那の經濟界は封建的農業制に立脚してゐる。奥地に於ける大部分の通貨は銅貨であつて。銀は富の象徵として貯藏せられ、銀貨は都市に於てのみ通用せられる。

その銀本位制は一時世界經濟恐慌に起然としてゐたが、二年後には同樣の恐慌を招來した。銀價下落は一時的に支那經濟に活氣を注入し、輸出入增加の傾向を示したが、恐慌襲來は滿洲事變を契機として現はれるに至つた。滿洲市場を失ひ關稅塩稅を失つた支那は、英米日の貨幣價値引下、米國の銀買上政策等に原因する銀貨暴騰の爲に、一層この趨勢に拍車をかけ、尙その上に慢性的農業恐慌が大なる影響を齎した。

輸出入貿易の衰退、關稅收入の激減、累年の入超及び密輸入の增加、外債の償還、地金銀流出の激增等は支那金融財政を危機に頻せしめた。

國民政府はこれに對し外國爲替管理令、金塊建値變更、現銀輸送取締令を發布したが效果なく、遂に現銀輸出稅の增額、平衡稅を設定して事實上銀の輸出を禁止するに等しい策を取つた。

しかしかゝる劃期的對策も米の銀買上勵行、經濟恐慌の深化、銀の密輸出、外國銀行の平衡稅引上等により遂に失敗するの餘儀なきに至つた。

米の銀買上は支那に取つて大なる打擊を與へ經濟恐慌を激化し、第二の對策の必要に迫られて來

た際、支那中央財政は殆んど破綻を來たし、爲替相場の下落、王兆銘兇變による中央、交通、中國三大銀行の取付騒が起つた。

英國系の匯豊、麥加利二銀行と前記支那三銀見との間に一千萬磅のクレヂット設定が成り、十一月四日通貨改革が實施されたわけである。

通貨改革の結果は

一、管理通貨制度の採用

二、平價切下

三、不換紙幣本位の採用

四、銀の國有とその流通輸出の禁止

となつたのである。

十三、日英對立尖鋭化

英國經濟特使リース・ロスの暗躍による支那幣制改革は、彼の辯明、支那當局の聲明等問題外であつて、明らかに東亞安定勢力たる日本の立場無視であることに疑ひなかつた。

英國は世界大戰後に於て日米佛露等の競爭國を持つやうになり、極東に於ては日本牽制の爲日英同盟を破棄し、海軍軍備會議を開催し、山東還附、九ケ國條約締結等に成功した。

その後の世界情勢は刻々と變化し、世界各市場に於て日英商戰が行はれるやうになつた。滿洲事變の勃發は日本の聯盟脫退となり、曾てその敎へ子であつた日本は筋骨隆々たる青年となつて、その太刀打ちにはたぢ〳〵とならざるを得なくなつた。

歐洲では戰敗國獨逸の興隆となり、伊太利のファシスト政策、エチオピアの攻略となつて國際聯盟の動搖にまで發展した。

更に露國は佛國と不侵略條約を締結し、海軍再建の計畫を進める。

歐洲大陸に於ける英國の政策は當然その變更を餘儀なくせられ、佛獨を操つてゐたものが、佛露との提携に早變りして、獨逸を牽制し、伊太利に對しても決して寬容な態度は示さない。

東洋に於ては支那大陸に於ける尨大なる權益と十數億ドルに上る巨額の投下資本を擁して、支那

の半封建的經濟組織の上に支配力を揮つてゐるのだ。

支那通貨改革を契機として、あるひはそれ以前より既に日本と英國との對立は尖鋭化してゐた。そして今後日本主義と英國主義とが如何なる役割を演ずるか、その消長は世界の齊しく注目するところである。

十四、黄禍論と白禍論

日本商品の世界進出は既に一九三〇年から顯著な徴候を現はしてゐた。

「西洋文明の沒落」「東邦の黎明」「光は東方より」が漸く喧傳されるに至り、黄禍論が擡頭して來た。

西洋文明の沒落は近代資本主義の行詰りの謂であり、西洋より遲れて立ち上つた東洋では西洋に於ては行詰りの資本主義も重要な役割を果し、又果さんとしてゐる。

誰であつたか記憶せぬが、

「十九世紀はヤンキイの世紀であつたが、二十世紀はスラブの世紀であらう」

と豫言してゐたさうだ。しかしスラブの世紀は「日本の世紀」であつた。

シヤム、印度、埃及、バビロン等、その昔世界に覇を唱へた所謂舊大國が日本の興隆を見て、光は東方よりと感じたことは、曾ての黄金時代を追想し、白人文明への反駁を如實に日本に見たからに外ならない。

獨立を主張する能はず白人の屬領として、あるひは保護國として、だゞ昔の夢を追ふに過ぎなかつた彼等に取つて、黄色人種の日本が獨り世界の舞臺で白人種と角逐するのを見ては、僅かに溜飲を下げ、何かの曙光を見得て亞細亞の復興を直感したのだ。

「黄禍論」あれば相對的に「白禍論」がある筈だ。白人がある有色人種を支配下に收めた時の「白禍」は引續き根强く繼續されて、世界の隅々まで波及せんとしてゐる。彼等は白禍を以て地上の樂土と稱し、現にその支配下にある國々は平隱にその業を勵み進歩向上しつゝあるではないかと稱する。

白禍は皮肉にも今迄考へも及ばなかつた黄禍にぶつゝかつたのだ。白禍對黄禍の拮抗戰が華々し

く展開されだ。

十五、日本派と歐米派

長い間下積みにされてゐた日本派が、日本に對する緩衝地帶の如く表面へ浮び上つたかと思ふと王兆銘の兇變によつて又泥沼の底へ沈下して行つた。

歐米派は捲上重來の勢を以て擡頭し、英米露へ接近して行つた。蔣介石の西南派統一で、目下盛んに暗躍してゐるのも歐米派であるし、日支調整交渉を嫌つてゐるのも彼等である。

親日か、抗日が、この重大な岐路に立つた支那が依然としてその國一流の鵺的交渉を繼續して行くかどうか、又は直接に日本と握手するかどうか。英米は多年築き上げた地盤に罅でも入つてはと今次の交渉に對し目を皿のやうにして重視し、日本が支那の一部でも支配權を握つては大變だと、支那歐米派の面々に對し糸を引いてゐるといはれる。

昨年春、北支を見限つた黄郛が南下を決行した頃から日本派は凋落した。その後北支問題が勃發

した際、王兆銘と何應欽が四面楚歌の窮地に陷り「新生」不敬問題發生と共に王兆銘は辭意を表明しが、蔣介石の熱心な慰留で復職した。しかし兇彈に見舞はれるに至つて萬事休した。

歐米派は英米を利用して私腹をや肥し、日本を牽制しようといふのが最大目的と傳へられる。我々日本側から見ると彼等の行動こそ不思議でならない。歐米を利用しようとすれば、結局歐米に對しそれだけの代償を拂はなければならない。民族自決も何もあつたものではない。生身の切り賣りと同樣である。

その歐米派の代表といはれるのが宋子文、孫科、孔祥熙の三人である。

宋子文は大正の末期かに、蔣介石と前後して日本に來たことがある。その時筆者は新聞記者としてインタービューしたことがあるが、確か宋董文と變名してゐた。その時、

「廠の如く亂れた支那の現狀は誠にお恥しい次第だ。しかしこれは生みの惱みを經驗してゐるものといはなければならない。今回の武漢南京兩政府の合同は完全なものであらうと考へる。日支關係は頗る微妙なもので、從來お互に誤解があり、屢々感情の衝突があつて、それが延いては行動にまで發展したが、お互の眞意を徹底せしめ、然る後意見の一致點を發見しなければならない。若し

支那に力ありとすれば日本は貧弱となり、日本に力あれば支那は貧弱となるのである。支那は帝國主義を全然排斥するものではない」

といふ意味のこと親しげに語つた。

その宋子文が日本排斥の亘頭となり、その後渡米の際横濱へ寄港したのに、日本の土地は踏み度くないと下船しなかつたことは筆者として不思議に思つた位である。やはり支那式だと思ひ、支那に力あれば日本は貧弱となるといふ談話をそのまゝ實現したい爲に、歐米派として活動してゐるのかとも思つた。

歐米派が外交界、財界等に立籠つてゐるに反し、日本派の大多數が軍政界にあるのは特異な景觀である。そして歐米派が日本派に比して遙かに底力を所有してゐるのは、浙江財閥を背景に控えてゐるからであらう。

主義思想を全く異にする日本派と歐米派は今後恐らく提携の機會はあるまい。提携する時は歐米派の沒落を意味してゐる。東亞に於ける支那の眞の立場を自覺する時が、歐米派の自然崩壞の時期である。

十六、支那よ共に進め

日本は各省聯合協議の結果を携行せしめて、桑島東亞局長を南京に特派し、更に今回須磨總領事の歸朝となり、交渉の前途は益々緊張を見せてゐるが、桑島局長の特派も須磨總領事の歸朝も共に日本が今回の日支交渉を頗る重視してゐる證左であつて、支那は日本が自衛權發動以前に、十分交渉を重ぬべしとの眞意を知ることが出來たであらう。

桑島氏特派の報と前後して、上海南京の支那斯聞紙は一齊に宣言を發し、國民政府のお先棒を擔いだ。

國內に對しては、

一、危險なる過激思想を一掃し盲目的外人復仇を以て事件を惹起する陰謀を阻止し一筑團結政府を援助せよ

二、輕々しく國交の決裂を口にせず一旦事が起つた場合城下の誓を爲すが如きは遂に國を亡ぼす

ものて最後の一瞬まで四億の民と國土を守り國家に殉ずべきである
と教へ、日本の朝野に對しては不祥事件を遺憾とし、寛大なる態度を要望し、又日本新聞界の自重を求めてゐる。

この支那紙が政府の意を體して發表した宣言が日本の鋭鋒を鈍らす爲の工作であると見る向が多いのは當然である。

日本の〇〇増遣は引續く不祥事件により已むなく取つた應急の措置に過ぎずして、彼からこの上手出しをしない以上は衝突はあり得べくもないのである。

然るに日本の交渉要求に對し疑心暗鬼の態度を捨てず、日本窮極の目標を略侵なりと惻斷して、北支の防備を強化すべく重大なる極秘命令が發せられたといはれ、日支交渉の前途には尚暗雲漂ふの感を深くした。

一、中央軍を北上せしめ、山西綏遠省境及び平漢線南段一帶に集中

二、宋哲元に對し防御工事の緊急完成を命じた。（一方宋哲元と北支日本軍當局との間に北支提携の最高條件の締約を見たと他の新聞電報は報じてゐる）

三、綏遠軍を増強

四、中央軍三ケ師は山西入りを完了、更に北進しつゝある

かくて交渉の成否如何によつては敢然一戰を辭せざる覺悟を以て、着々と準備を進め北支一帶は重大な動きを見せつゝありと傳へられる。

右に對し我が陸軍當局は重大關心を以て事態の推移を注目しつゝあるが、日支交渉そのものに對しては大なる期待を懸けてゐないものと見られ、交渉決裂に終れば、蔣介石に對する好意を抹殺し南京より川越大使を引揚げしめて事實上國民政府否認の建前を取り、地方々々の實力者と個々全面的に日支提携を折衝すべく既に萬般の手筈を整へてゐるといはれる。

最惡の場合を豫想した陸軍の建前から見れば、蔣政權は今や風前の灯よりも儚ない運命にあると見なければならない。地方々々の實力者と提携して、それを日本が何處までも援助して行けば、蔣介石が當然下野を餘儀なくされることは火を見るより明らかなことである。

日支交調整を理想的ならしむるためには、支那が空威張りを止めて、東洋に於ける日本の立場、支那の立場を理解し、歐米依存を廢し、日本の要求を容認し、全民力を擧げて全支開發の爲い蹶起

することである。然る上は日本としても支那の主權を飽くまで尊重し、樂土建設の爲全幅の努力を惜しまぬであらう。あるひは西方の邊境〇〇、〇〇〇の支那への回收も實現するかもわからない。

「支那四億の民よ、わが一億の民と共に、東亞文化建設の爲に、どこまでも手を握りあつて進まうではないか」の叫びを支那は素直に受け入るべきである。

昭和十一年十一月三日印刷
昭和十一年十一月七日發行

版權所有
不許複製

支那をめぐる日英の對立戰

定價拾錢 送料二錢

著者 柳原隆 東京市杉並區高圓寺七ノ九〇一
發行兼印刷者 楠駿二 東京市神田區一ツ橋二ノ九
印刷所 佳秀社印刷所 東京市杉並區高圓寺七ノ九〇一
發行所 さんもん書房 振替東京一二〇〇二七番

營業所 東京市麹町市有樂町二丁目二番地(石川ビル) さんもん書房 電話銀座 二五二三番

取次店 東京市麹町區有樂町二ノ二 森田書房
大阪市北區堂島上二丁目二十五 新正堂書店

特約店 東京鐵道局公認 鐵道保養會
(鐵道各驛ホームスタンド一手販賣)

定價各一部金十錢 送料二錢

農村問題研究會著　産業組合を暴露する
石原義治著　良き職業の選擇は成功への第一歩
青木敏著　自由主義より統制主義へ
友松圓諦著　邪神に迷ふ人の爲めに
生方敏郎著　ユーモア心理學
生方敏郎著　漫談論語　特價二十錢
生方敏郎著　人生を裏から覗けば
阿久津音吉著　處世指針一言哲學
楠木淳著　世界大戰勃發か
楠木淳著　歐阿外交戰に躍る群雄
法學博士　度邊鐵藏著　惡魔的存在産業組合を裁く
櫻木徹二著　ソヴエート・ロシアの對日工作を暴く
クロパトキン手記　日露戰爭は何故に起つたか？
伊井藤吉郎著　資金網物語彼等は如何にして今日を築いたか

東京市麹町區有樂町二ノ二　さんもん書房　電話銀座二五二三番

東京市内で一番よく賣れる

讀賣新聞

朝刊十二頁
夕刊八頁

東京銀座 讀賣新聞社

オールユーモア十一月號

ユーモア小說 **意外な求婚者**（新人の世に問ふ傑作篇） 結城東三

ナンセンス御意見の相違

藝者と旦那……近江帆三
親父と倅……明石潮
重役と小使……松波治郎
作者と役者……伊井友三郎
未亡人と女中……武野藤介

あらかセクシヨン

（ナンセンス放送）高田の馬場
（替歌）ゆるしてネ
（漫咄）泥棒
（これはゆかい）愚問愚答

圓宿ホテルの默劇
黄なる花…よみおとすな
（掌中萬才）海底演藝會
その他に珍、奇、妙、異な話で一ぱい

喧嘩友達（紙上漫談）……大辻司朗

家庭ユーモアコンクール

亭主はお人好し……柴田慶二
ハイカラ嬢ちやん……眞咲一三
奥様はお利口者……林田一英
おしやれ女中記……森田番六
書生さんはお見榮坊……大庭眞介

川柳漫畫 浮世の穴……塚越正光吟 根岸民彌畫

愛煙家の心理（マンガ）……廣瀬しん平

文壇ゴシップ……
藝界ゴシップ……

映畫ゴシップ……
スポーツゴシップ……

人氣花形珍談集（天下のスターのナイショウバナシ） 武岡秀三

敗ける良人は嫌よ（ナンセンスコメデー） 村田千秋
お世辭酒場（新落語） 桂文都
失業も朗らかに（新漫才） 浪花家シカク 浪花家マンマル

進呈

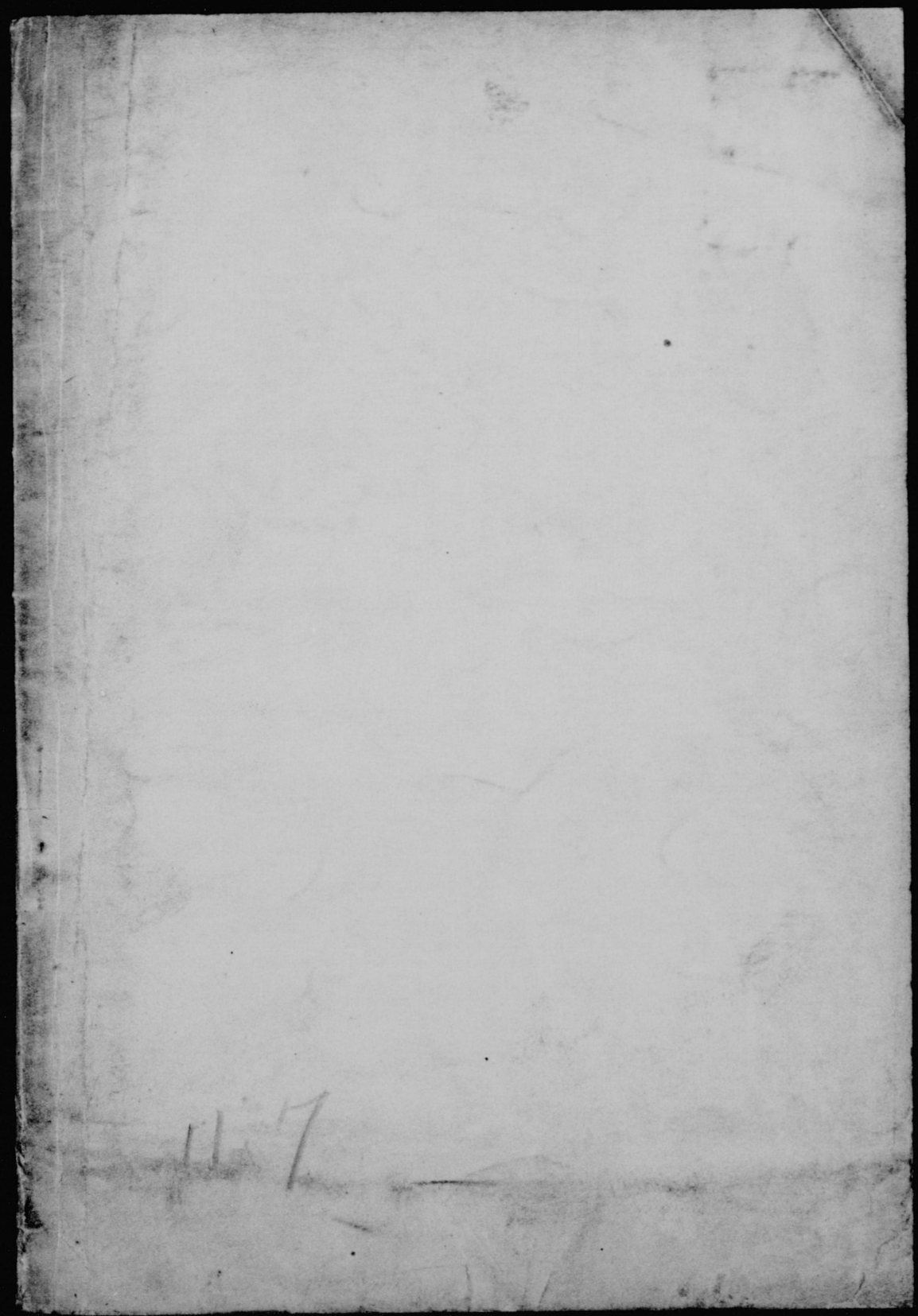
年極讀者に貴方の似顔繪進呈
擔當（根岸民彌、鳴海清次、古田久三郎の三畫伯）
詳細は本文を參照！

涙の喜劇 **一つの愛情**（思はず出るあの笑ひ） 曾我廼家五九郎

323
5-34

• 徳余の故 • り巡所ヶ三十二国西 • 内宮館故 • 西国の女 • 故の女

• ノーロードホの私 • 故の恵還

• べるし行故未週 • 話たれらてあで故 • り巡所名本日 •

• 故館の魅出 • 恥しかつた故